

# サリオス

33,891票



2019年 朝日杯フューチュリティステークス(GI)

## 巨体を弾ませ2歳マイル王者に

コントレイルが史上8頭目の三冠馬となった2020年。春のクラシックでそのコントレイルに対峙したのが、この世代の2歳マイル王者サリオスだった。

2019年6月、新馬戦が始まって最初の週の東京で勝ち上がったサリオスは、10月の2戦目も同じ東京の芝マイルで行われるサウジアラビアロイヤルC(GIII)に出走。1分32秒7の2歳コース記録で完勝し、朝日杯フューチュリティSへと向かった。

鞍上にライアン・ムーア騎手を迎え、1番人気に推されたサリオスは、函館2歳Sを逃げ切ったビアンフェが引っ張る緩みのない流れを好位の3、4番手あたりで追走。外からじわりと前に迫りながら直線を向き、スパートをかける。2歳馬離れた巨体でビアンフェを交わして先頭に立ったサリオスを追うのは、京王杯2歳Sを当時の2歳コース記録で制してきたタイセイビジョン。しかしさらに加速して突き放したサリオスは、最後は2馬身半まで差を開いてゴールを駆け抜けた。

勝ちタイムの1分33秒0は、2年前のダノンプレミアムタイムを0秒3更新する当時のレース記録。さらに馬体重538kgでの勝利は、記録が残る1970年以降の本レースにおいて最重量記録となるものであった。

その2週後、牡馬が出走可能なもう一つの2歳GI、ホープフルSをコントレイルが勝利した。甲乙つけがたいハイレベルな走りを見せた2頭のGI馬は、翌春、ともに3戦無敗のまま皐月賞で対峙する。歴史に残る激しい競り合いを演じ、その熱い戦いは次の日本ダービーまで続いた。いずれも2着に敗れたサリオスだが、その存在はコントレイルの偉業を語る際には欠かすことのできないものとなっている。

以降はマイル路線を中心に走ったサリオスは、2度の毎日王冠制覇、香港マイル3着、安田記念3着など活躍。引退後は種牡馬として、その底知れないポテンシャルを次代へと伝えている。

### 第71回 朝日杯フューチュリティステークス(GI)

2019年12月15日 阪神競馬場 1600m(芝・右・外) 晴・良 16頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	サリオス	牡2	55	R.ムーア	堀 宣行	1.33.0	①	③③
2	タイセイビジョン	牡2	55	武 豊	西村 真幸	2 1/2	②	⑫⑧
3	グランレイ	牡2	55	池添 謙一	池添 学	1 1/4	④	⑮⑮
4	タガノビューティー	牡2	55	和田 竜二	西園 正都	クビ	⑨	⑭⑫
5	プリンスリターン	牡2	55	原田 和真	加用 正	1 1/4	⑤	⑨⑧

### サリオス Sarioso

2017年1月23日生 牡 栗毛

父:ハーツクライ 母:サロミナ 母の父:Lomitas  
生産:安平・ノーザンファーム 馬主:有限会社 シルクレーシング  
通算成績:15戦5勝(うち海外1戦0勝)

#### 主な勝ち鞍

2022年 毎日王冠(GII)  
2020年 毎日王冠(GII)  
2019年 朝日杯フューチュリティS(GI)、  
サウジアラビアロイヤルC(GIII)



2022年毎日王冠(GII)

# メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。  
1位:サリオス(33,891票)

2<sup>位</sup> **グラスワンダー** 30,911票



1997年の優勝馬。単勝オッズ1.3倍の1番人気に応えての勝利であった。走破タイム(当時は中山競馬場・芝1600m)は2歳コースレコードで、従来の記録を0秒4更新する驚異的なもの。

3<sup>位</sup> **フジキセキ** 17,998票



1994年の優勝馬で、サンデーサイレンス産駒初のGIホース。本競走には単勝オッズ1.5倍の人気を背負って出走、アメリカ産の良血馬スキーキャプテンをクビ差退けて勝利した。

4<sup>位</sup> **ナリタブライアン** 16,403票



「シャドーロールの怪物」と称されたナリタブライアンの初GI制覇となったのが1993年の本競走。単勝オッズ3.9倍の1番人気で出走すると、後続に3馬身半差をつける圧勝だった。

5<sup>位</sup> **ダンププレミアム** 13,548票



2017年の優勝馬。単勝オッズ2.3倍の1番人気に応え、後続に3馬身半差をつける危なげない走りを見せて無敗でのGI戴冠を果たした。



特設サイト